

町の元気に役立てて

町観光協会収益金を町に寄附



小谷会長から寄附金を手渡される

2月24日、町観光協会（小谷澄男会長）が、金持神社の収益金の一部450万円を町に寄付しました。

当日は、小谷会長ら協会役員が町役場を訪れ、札所で人気の高い縁起物「黄色いハンカチ」に包んだ寄附金を景山町長に手渡しました。

景山町長は「平成18年から毎年寄附をいただき、総額2500万円になりました。町が元気になるもとを作っていただきありがたい。観光振興基金として積み立て、これからの観光振興に有効に使いたい。感謝の気持ちでいっぱい」と感謝を述べ、受け取りました。

和やかな雰囲気の中、笑顔の絶えない寄附金贈呈式となりました。

実技を交え介護学ぶ

黒坂地区コミュニティ講演会



参加者らは身を乗り出して介護の方法を学ぶ

介護の基本を身に付けておきたいと、2月26日、町公民館で黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催の講演会が開かれ、多くの参加者が介護について学びました。「知って納得！介護のポイント」と題し、日翔会福祉用具専門相談員の徳岡琢己さんが、ベッド上で実技を交えながら説明しました。徳岡さんは参加者にやさしく語りかけ、和やかな講演会となりました。

当日は、栄養、介護、福祉用具などの相談コーナーも設けられ、参加者が活発に相談する場面が見られました。日翔会には専門職員が多数在籍しており、地域で要望があれば出かけていきたいとのことでした。

安心・安全のまちづくり実る

地元住民・企業の消火活動に感謝状

1月18日に根雨で発生した建物火災において、地元住民と企業が連携し、消火活動や救助活動を行ったことに、鳥取県西部広域行政管理組合消防局から感謝状が贈られました。

2月20日、根雨の町公舎で行われた感謝状贈呈式には、2つの自治会と4つの企業が出席。江府消防署長、田中好徳さんから一人一人に感謝状が手渡されました。

田中さんは「早急な110番通報と消火活動に感謝します。」

この町は全町一斉防災訓練で、日ごろから消火訓練などに取り組んでおられます。地域を自分たちの力で守ることを、次の世代につなげてほしい」と今後の活動に期待しました。また、景山町長は「いち早く活動してもらい、ありがたかった。共に助け合い、住みよい日野町をつくりましょう」と激励しました。自治会は消火栓を使ったいち早い消火活動が、企業は住んでおられた高齢者の保護活動が表彰されました。

《表彰団体》

※前列右から

◆根雨2区自治会

（杉山潔自治会長）

◆有限会社安達商事

（安達享司代表取締役※代理）

◆有限会社遠藤工務店

（遠藤静流代表取締役）

※後列右から

◆根雨3区自治会

（甲斐弘文自治会長※代理）

◆医療法人社団日翔会

介護老人保健施設おしどり荘

（湖山聖道理理事長※代理）

◆社会福祉法人日翔会

デイサービスかじか荘

（湖山康成理事長※代理）

※後列中央は、江府消防署長、田中好徳さん



町公舎で行われた感謝状贈呈式に出席した皆さん



「わしにもできいかな」楽しいひととき

地域を元気にしたい
 上本郷自治会がコミュニティ
 助成事業備品を整備



黒坂鏡山城下を知ろう会の牧会長（中）と西古事務局長（左）、日野中学校3年の多賀駿平さん（右）

今後の活躍に期待
 日本海新聞ふるさと大賞受賞式

県内の地域発展やスポーツ振興に功績のあった人を表彰する、日本海新聞ふるさと大賞・日野町の部の表彰式が、3月1日、町役場で開かれました。今回は、地域貢献賞に黒坂鏡山城下を知ろう会（牧智也会長）が、スポーツ功労賞に日野中学校3年の多賀駿平さんが選ばれ、賞状と記念品が贈られました。

黒坂鏡山城下を知ろう会は、歴史遺産「黒坂城」を住民自らの手で掘り起こしている地道な活動がまちの誇りを再発見させたこと、多賀さんは、ジャベリックスロー（小中学生版やり投げ）の各種大会で優秀な成績をあげ、町民に勇気と感動を与えたことが認められたものです。

地域住民が集い、元気あふれる地域にしようと、上本郷自治会ではコミュニティ助成事業を利用し、テントや放送機器をはじめ、ニュースポーツの道具などを購入し公民館備品を整備しました。

3月4日に地域住民が公民館に集まり、講師に町体育指導員高橋伸也さんを招いてニュースポーツの使い方やルールを学びました。参加した住民らは実際に楽しみながら、使い方を確認。今後の自治会活動がより元気なものになることを期待しました。

助成事業は（財）自治総合センターの宝くじ普及広報事業の一環で、宝くじの受託事業収入が財源です。

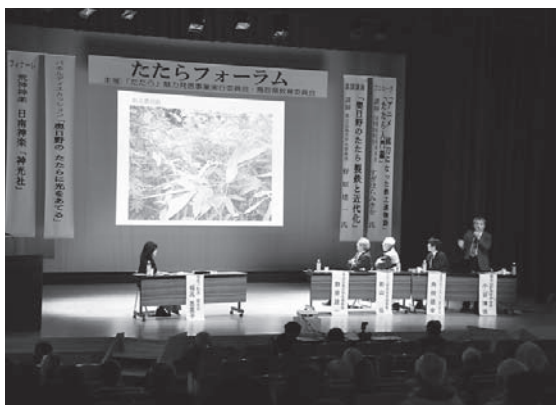
▼あなたの声や地域・職場での話題をお寄せください。★役場企画政策課まで（電話72・0332）

日野発！
 たたらの魅力を全国へ

たたらフォーラムで
 歴史や地域資源活用を考える



都合山たたらを発掘調査した角田徳幸さん



たたらに関する資料や遺構の保存活用を考える

たたら製鉄で奥日野が輝いていた歴史を見つめ直し、その利活用などを考えようと、3月4日、町文化センターでたたらフォーラムが開かれました。郡内はもちろんのこと郡外の参加者も多く、当日は200人がたたらの魅力学びました。

フォーラムは講演や遺構発掘調査のパネル展示・説明、パネルディスカッションが行われ、講演では、広島県立大学名誉教授の野原建一さんが奥日野のたたらが日本の近代化に大きな影響を与えていたこと、今後、地域資源として活用していくための県外までおよぶ広域的なネットワークの構築などを提案されました。

さらに都合山たたら（上菅）、砥波^{なみ}たたら（日南町）を発掘調査された島根県教育庁古代文化センター専門研究員、角田徳幸さんのパネル展示と説明が行われ、写真で見える遺構の様子や出土品に、参加者らは歴史的価値を改めて再認識した様子でした。

また、パネルディスカッションでは、たたら研究や地域でたたら跡の保存活動を行っている皆さんが「奥日野のたたらに光をあてる」をテーマに、活動の紹介や今後の活用方法を意見交換しました。会場では、参加者がうなずいたり、映像を食い入るように見る姿が印象的でした。

最後に、日南神楽「神光社」の皆さんによる荒神神楽が披露され、間近で見える勇壮な舞に、大きな拍手がおくれました。